

神栖市を全国区にするために

神栖市の未来を考える研究会

委員 津賀 勇人

【現状及び課題】

《現状》

- 気候が比較的温暖である
- 市の財政が極めて健全である
- 福祉施策が充実している
- 日本有数の鹿島コンビナートが立地している
- 北関東以北で最大かつ拡張余力のある鹿島港がある
- 依然として人口が増加傾向にある
- ピーマンの生産量が日本一である
- 民間宿泊施設を利用したサッカー合宿などスポーツが盛んである
などの特徴を有している。

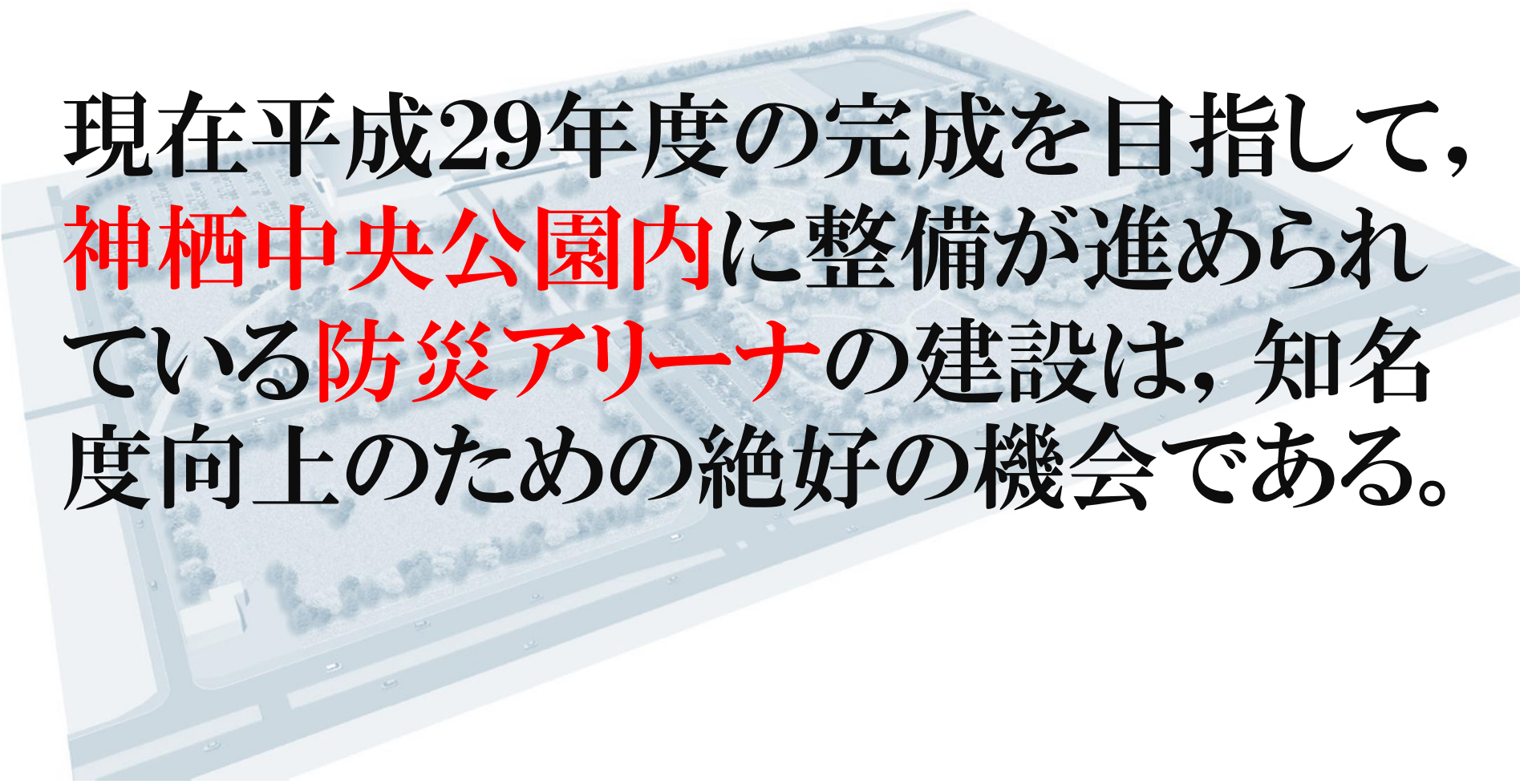


【現状及び課題】

《課題》

PR不足などから、そのような優れた特徴が市の内外に広く認知されているとは言えない状況にあり、今後の市のブランド力の向上が課題となっている。





現在平成29年度の完成を目指して、**神栖中央公園内**に整備が進められている**防災アリーナ**の建設は、知名度向上のための絶好の機会である。

【提言】

提言1. 防災アリーナを市を象徴する建築物に

提言2. プロスポーツリーグの誘致

提言3. 東京オリンピック・茨城国体における活用

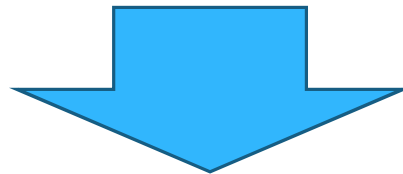
提言4. その他防災アリーナの活用

【提言1. 防災アリーナを市を象徴する建築物に】

超一流のデザイナーの活用などにより、意匠を凝らした建築物とすることが考えられる。プロスポーツリーグなどテレビ中継を意識するだけでなく、日常的に市民が目にする外観を個性的で美しいデザインとすることなどにより、**市民に愛され、市を象徴する建物に**することが望まれる。

【提言2. プロスポーツリーグの誘致】

プロスポーツ開催が十分可能な大規模施設



- メインアリーナ (バスケットボールコート3面)
- サブアリーナ
- 屋内プール
- トレーニング室
- 音楽ホール

定期的にプロスポーツの試合が開催されれば、テレビ中継などにより、**全国的な知名度の向上**が大いに期待される。

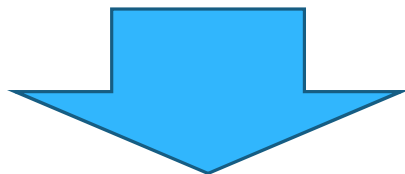
《**誘致が想定されるプロスポーツ**》

フットサルリーグ

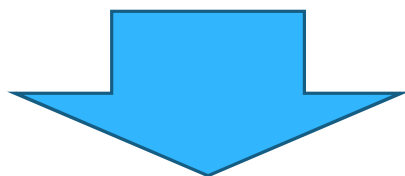
バスケットボールリーグ

《誘致に向けた施策》

行政・民間・市民の連携が必要不可欠



各スポーツ協会と連携し、参加チームのバックアップをすることや、スポンサー企業を集め、地域リーグの基盤強化・活性化を図ることが必要であると考えます。



《誘致に向けた施策》

「**神栖市プロスポーツ誘致委員会(仮称)**」を設置し、市として誘致に取り組む体制作りをPRする

《期待される効果》

全国的に「神栖市」の知名度が上がり、また、市民間の交流、地域コミュニティー作りの一環としての役割を果たせる

【提言3. 東京オリンピック・茨城国体における活用】

アリーナ完成後には、茨城国体及び東京オリンピックという2つの大きなスポーツイベントが予定されている

- 茨城国体開催(2019年)
- 東京オリンピック開催(2020年)

・茨城国体開催(2019年)

防災アリーナを拠点とし、各会場へシャトルバスを運行させるなどの対応をし、大会期間中は防災アリーナ周辺で物産展等を開催し、PR活動を強化する

地元出身の国体選手を輩出するため、市内の中学・高校を強化指定校(特に地元開催競技)とし、バックアップ体制の強化を図る

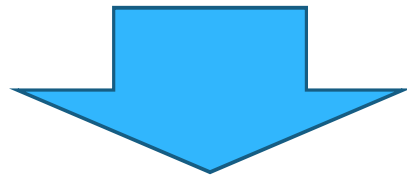
東京オリンピック開催(2020年)

前年開催の国体で使用した施設や運営ノウハウを活かし、キャンプ地誘致を行う

アリーナ機能を活かした練習場等の提供等を行う

【提言4. その他防災アリーナの活用】

大規模な音楽祭を開催し、各地から参加者等を集め、コミュニティーづくりの場を創出する(場合によっては、野外コンサートも可能)。



継続的な施設活用が可能となり、地域活性化につながると考えられる。

【まとめ】

防災アリーナの完成直後に、茨城国体、東京オリンピックという2つの国民的なスポーツイベントが開催される。特に東京オリンピックの出場国が神栖市をキャンプ地に選べば、日本のみならず国際的なメディアから取り上げられる可能性もあり、**全国的に知名度がアップすると期待される**。また、どの程度の経済効果があるかは不明だが、既存施設を活用すれば、少ない投資で経済効果が期待できる。世界中のトップアスリートとの交流を通じて地域が活性化するとともに、次世代を担う子供たちに大きな夢と感動を与えられると考える。また、継続的な施設利用を実現するため、音楽祭等のイベントを定期的に行うことで、地域の新たなコミュニティー創出や地域活性化につながると考える。